

社内木鶏感想用紙

124回目

2024 年 7 月 25 日

7 月号

名前

タイトル : 師資相承

①感じたこと(仕事・人生にどう生かすか 等)

師資相承とは、師から弟子へと道を次代に伝えていくことであり、東洋教学の教えでは師が己の血を弟子の骨に注ぎ込む。弟子はその血を一滴もこぼさない様に受け取る。師と弟子がお互い信頼し合い真剣に対峙しなければ成り立たないと書かれています。人に伝えること、人から教わるという事は本当に真剣勝負なのだという事がわかりました。ただ私が考える「師資相承」はこれほどまでに堅苦しいものだけではなく、相手がどのように思っているかは別とし自分が相手を『師』と思いその人から、色々な事を吸収して成長しようと思う一方的な考え方もありなのではかと思えます。そのような考え方でよいとすると私の『師』は田中社長だと思えます。高校を卒業し、人間としては未熟で、社会人としてまったく何もわかっていない状況の中、挨拶の仕方、言葉遣い、人との接し方や営業マンとしての仕事への向き合い方など沢山の事を教わり吸収させていただきました。まさに今の私が有るのは田中社長という『師』と出逢えたことが出来たからだと言っても過言ではないと思えます。文末に「人間は一生のうち逢うべき人に必ず逢える。しかも一瞬早すぎず、一瞬遅すぎず」と書かれています。わが社には田中社長以外にも、私が苦手な事を教えていただける『笑顔の師』『頑張り屋の師』『まじめの師』『トークの師』『冷静さの師』『忍耐の師』等々、たくさんの師がおられます。まさに田中共栄商会は私にとっては早すぎず・遅すぎず・逢うべき『師』と出会える大切な場所であることを再認識することが出来ました。

②仲間の発表を聞いて気付いたこと

社内木鶏感想用紙

2024 年 7 月 25 日

7 月号

名前

タイトル:

師資相承

①感じたこと(仕事・人生にどう生かすか 等)

師資相承とは、師から弟子へと道を次代に伝えていくということ。

師と弟子が道を相承していく上で、大事なことは、師は己の血を弟子に注ぎ込み

弟子はその血をこぼさないよう受け取ることだと説かれている。

このことを会社に置き換えて考えてみると、今こうして田中共栄商会の一員と

して日々、仕事をする事ができるのは、これまで長年にわたり数々の先輩方が

尽力され道をつくり継承されてきたからだと思います。これまで道をつくり繋げて

こられたものを次代へ繋げれる様、先輩方からの教えを取りこぼすことなく

受取、自身のやるべきことを全うしていかなくてはならないと感じました。

今回の致知のタイトルは、「師資相承」ですが、この特集の最後に、師資相承が

成立するために肝心なことは、「求める心」だということ。そのためには、色々な

ことに挑戦することが必要だと思います。これからの人生、「求める心」を意識し

様々なことを吸収するという姿勢で行動していきたいと思っています。

②仲間の発表を聞いて気付いたこと

社内木鶏感想用紙

2024 年 7 月 25 日

7 月号

名前

タイトル:

師資相承

①感じたこと(仕事・人生にどう生かすか 等)

師資相承とは「師から弟子へと道を次代に伝えていくこと」

あらゆる学問・道・文化・伝統と様々あります。文化や伝統に関しては後継者問題等でも

ニュースで見かけることもあります。伝統や文化を守ったきた思いを知ると何十年・年百年の重さを感じました。私自身も大げさかもしれませんがたくさんの事を学んできました。

学生時代には主に学問、社会人になってからは学問だけでなく礼儀やマナーなど

社会で生きていくための事や人間力など身近に恩師がいます。特集の横田官長の内容は

想像を超える師匠とのエピソードが書かれていますが尊敬の意がないとできない

行動でもあると思いました。最後の方に師弟関係において教えんとする者の姿勢より

学ばんとする者の姿勢にすべてがかかっているとありますが、まさにこれから先

私もたくさんの方から学べるチャンスがあると思います。そのチャンスを逃さずに

教えていただけることを当たり前と思わず真摯に向き合い自分のモノにできるように

頑張りたいと思いました。今回内容が難しかったのですが皆さんの感想文から

新たに学ばせていただきたいと感じました。

②仲間の発表を聞いて気付いたこと